



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊鏡二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

[大分県立病院ウェブサイトはこちら](#)



P.1~3,8に精神医療センター特集、P.4~7に新任部長挨拶を掲載しています。

精神医療センター 準備室

10月に精神医療センターが オープンします

県民ひとりひとりの「こころ」と「からだ」に寄り添い 精神科救急医療機関として安全・安心を届けます

10月に精神科救急医療・身体合併症医療に特化した県内唯一の施設として大分県立病院精神医療センターを開設します。36床の閉鎖病棟で精神保健福祉法のもと診療が行われる総合病院併設の精神科施設です。これまで大分県では精神科救急の受け皿に乏しく、長年、大きな問題となっていました。精神医療センターの開設により、精神科救急医療が大きく前進することとなります。開設に際して県民の皆さんに3つのことをお伝えさせていただきます。

まず1つ目は、精神科救急(身体的な問題などなく精神科のみで完結できる救急)としての役割です。精神医療センターでは十分な個室と24時間体制で対応できる医師をはじめとしたスタッフを揃え、精神科救急事案に対応したいと考えています。また身体合併症については、精神症状が軽症の場合は、今までどおり一般病棟に入院していただき、我々精神科医が一般病棟へ往診します。しかし、精神症状の濃厚な治療も同時に必要な方は、精神保健福祉法のもと精神医療センターに入院していただき、身体合併症を診療する先生方と密に連携しながら治療していきます。

2つ目はセンター開設後の外来診療体制についてです。原則、センターで対応する患者さんは身体的な問題を抱えている方や周産期の方に限らせていただきます。原則、精神科のみに通院している外来患者さんは、積極的に地域の診療所や病院を紹介させていただきます。

3つ目は若い人たちへの教育研修機関としての役割です。精神科医療に興味のある医学生や研修医の方、また看護師や精神保健福祉士、公認心理師などたくさんの職種の方が充実した研修を受けられるような施設にしていきたいと考えています。令和3年度からは初期研修医、専攻医も受け入れできるよう準備を進めています。

精神医療センターは、地域の医療機関のみならず、関係機関(保健所、消防、警察など)とも密に連携を行い、病状が安定した患者さんは「かかりつけ医」又はご自宅近くの病院や診療所で治療していただくという大きな流れを作っていきたいと考えています。

最後になりますが、開設まで残り3ヶ月を切りましたが、万全の準備を行って10月の開設を目指し、大分県の精神医療の中核としての役割を担い、県民の皆様に貢献できるようにしていきたいと思っております。関係者の皆様にはさらなるご支援を賜りますよう、今後ともよろしく申し上げます。

(精神医療センター準備室 室長
兼精神神経科部長 塩月 一平)





施設概要

名称…大分県立病院精神医療センター

構造…鉄筋コンクリート2階建

1階 外来 / 2階 病棟

延床面積…2,994㎡

病床数…36床

【内訳】保護室8床、HCU2床、身体合併症個室6床(うち陰圧室1床)、個室8床、多床室12床(4床×3室)

理念

大分県立病院本院の基本理念(奉仕、信頼、進歩)に加え、患者さんの人権を擁護し、安全な精神医療を提供します。

経緯

- 1959(昭和34)年 大分県立病院に神経科を新設
- 1975(昭和50)年 精神神経科に改称
- 1992(平成4)年 新病院完成 大分市豊饒(現在地)に移転
- 2008(平成20)年 精神神経科外来を閉鎖
- 2010(平成22)年 精神神経科外来を再開
- 2015(平成27)年 大分県が「県立精神科基本構想検討委員会」を設立
- 2016(平成28)年 上記委員会が「県立精神科基本構想」を知事へ報告
- 2019(平成31)年 精神医療センター準備室を新設
- 2020(令和2)年 精神医療センター竣工

基本方針

○他施設では困難な精神科医療への対応

24時間365日、他施設では対応困難な精神科急性期患者や身体合併症患者に対して、本院の身体科と一体となって、短期・集中的治療を行います。

○患者中心の医療

精神保健福祉法を遵守し、患者さんの人権に十分配慮した医療を行います。

○院内外との連携

本院の身体科や院外の医療機関、関係機関と連携し、患者さんの早期の社会復帰を目指します。

○健全な経営

在院日数や在宅復帰率、再入院率などの指標を把握しながら健全な経営に努めます。

精神医療センターの特色

1.精神科救急医療について

精神疾患によって、自分自身を傷つけたり、他者に危害を加えるおそれが差し迫っている状態を「精神科救急状態」といいます。

例えば、①幻覚や妄想、興奮、支離滅裂な言動等があり、通常の生活を送ることができない状態

②幻覚や妄想に左右され、他者に危害を及ぼすおそれがある状態

③抑うつがあり、具体的に自殺の方法を考えたり、そぶりがみられ、自傷行為が切迫している状態

などがあげられます。

当センターでは、他の医療機関では対応が困難な「精神科救急状態」の患者さんを受け入れます。夜間休日においても、日当直医師を配置し、精神科救急医療に24時間365日対応できる体制を整えます。

2.精神科身体合併症について

身体疾患をもちながら興奮や意思疎通が図れない、死にたい気持ちが続く等の精神症状のため一般診療科では対応が困難な状態をいいます。

例えば、①脳炎、脳挫傷などの急性期で興奮や異常行動がある状態

②自殺企図後で外傷があり、死にたい気持ち(希死念慮)にとらわれている状態

などがあげられます。

身体疾患の集中的な治療が必要な場合は、本館の救命救急センターや一般診療科に入院していただき、精神科医師が入院病棟に出向き、患者さんが身体疾患の治療に専念できるようにサポートします。身体疾患が落ち着いたものの精神症状が強い場合は、当センターに入院していただき身体科医師と共同で治療にあたります。

常に身体科医師と連携しながら、精神科救急・身体合併症診療を迅速に行います。

3.療養環境について

完全閉鎖病棟ですが、安全と快適な療養環境に配慮した明るくあたたかな空間作りに努めました。

保護室



個室



食堂



8ページ(裏表紙)につづきます。

小児外科部長ご挨拶



小児外科 部長

むら もり かつ み
村守 克己

みなさん、初めまして。小児外科担当の村守克己と申します。

この度二度目の大分県立病院勤務となり大変うれしく思っています。

大分県は広く、県内遠方からも多くの小児外科患児さんが受診されます。平成元年4月に当院に小児外科が新設されて以来、当科では生まれたばかりの赤ちゃんの手術から、単径ヘルニアや急性虫垂炎などのよく遭遇する日常疾患の手術まで数多くが行われ、大分県の小児外科診療をリードして参りました。本来小児外科は成人外科から派生した診療科であります。小児の特徴を生かし小児にあった外科診療の必要性から生まれた科です。安心して治療を受けていただけるよう、小児にやさしい腹腔鏡手術のみならず、漢方薬を併用した治療にも力を入れています。

これまで県内多くの小児科の先生に支えていただき、当科には豊富な症例数とともに多くの診療経験が蓄積されています。これを礎として新しい年代、令和の県病小児外科をますます充実した診療科にしたいと思えます。頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

がんセンター第二外科部長ご挨拶



がんセンター
第二外科 部長

いけ べ まさ ひこ
池部 正彦

2020年4月に外科(がんセンター)に赴任しました。大分県の出身で、高校卒業まで大分で過ごしました。これまで主に福岡県の病院に勤務していましたが、このたび故郷の基幹病院で働く機会をいただき、大変嬉しく思っています。大分県が、住環境や自然環境に恵まれていることをあらためて実感しています。

消化器外科が専門で、これまで主として食道がん、胃がん、大腸がんの診療を行ってきました。前任地の九州がんセンター消化管外科では、診療科責任者として年間40例程度の食道がん手術を担当し、日本食道学会学術集会の準備や食道癌診療ガイドラインの作成に携わりました。食道がんの治療は、手術、抗がん剤治療、放射線治療を組み合わせた総合的な経験が必要になります。総合病院である大分県立病院では、各部門の協力による高水準の治療が可能です。

日本の消化器外科手術のレベルは国際的にも高く評価されています。大分県立病院においても、患者さんにとって最良の外科医療を国内最高水準で行うことを目指します。これまでの30年におよぶ外科医としての経験と知見を、大分県民のみなさまにお役立てできるよう努力する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

皮膚科部長ご挨拶



皮膚科 部長

たけ お なお こ
竹尾 直子

本年4月に前任の島田浩光医師から皮膚科部長を引継ぎました。平成6年に大分医科大学皮膚科に入局、医師2年目の1年間と平成12年からの5年間半、当院に在籍し、当時の岡本壽男部長、佐藤俊宏部長のもとで、勉強させていただきました。この度、再びこの病院に戻って参りましたことに不思議な縁を感じますとともに、臨床医として、患者の皆様方に育てて頂いたご恩をお返すためにも、一生懸命、部長としての職務を務めさせていただきます。

現在、皮膚科は4人体制で診療を行っています。皮膚科の一般診療に加えて、特殊な治療としましては、蕁麻疹に対する分子標的治療薬、乾癬やアトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤による治療なども行っています。また、入院治療にも対応しています。当科で対応困難な場合は、大分大学医学部附属病院皮膚科にご紹介させていただいております。

患者の皆様方によりよい治療を提供できるように、常に最新の知識を得るように心がけ、週に1回はカンファレンスを行い、症例検討をする時間を設けています。

大分県の皮膚科診療に貢献できるよう努力して参りますので、今後ともよろしくご厚意申し上げます。

呼吸器内科部長ご挨拶



呼吸器内科 部長

あん どう まさる
安東 優

私は、2020年4月1日付けで呼吸器内科部長として勤務することになりました。これまでは、大分大学医学部附属病院で呼吸器内科に在籍し、びまん性肺疾患(間質性肺炎)アレルギー性疾患(気管支喘息、薬剤性肺障害)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)を中心に研鑽を積み、研究をしてまいりました。昨今のコロナウイルス感染症はすべての人にとって脅威であり恐怖だと思えます。今のところ治療法は確立されておらず、予防ワクチンも開発中です。しかし、「やまない雨はない、明けない夜はない」という名言がございますので、必ず出口は見えてくるはずで。呼吸器内科はコロナウイルス対策に追われて日常診療をしていないという印象がございますが、これまでと変わらずにしっかり責任をもって通常診療しておりますのでご安心ください。

がんセンター脳神経外科部長ご挨拶



がんセンター
脳神経外科 部長

ながい やすゆき
永井 康之

当院は救命救急センター、がんセンター、総合周産期母子医療センター、循環器センターを擁し、まさに大分県の中核病院として発展してきました。さらに重点項目に挙げているのが脳血管医療(脳卒中)です。脳卒中は脳梗塞や脳出血、くも膜下出血などの急性脳血管障害(脳卒然と中る病)のことですが、国レベルでは、2019年12月「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法(脳卒中・循環器病対策基本法)」が施行されました。我が国の脳卒中有病率は111万5千人(2017年)、介護度の最も重篤な「要介護5」患者の中では脳卒中は30.8%を占め、疾患別では断トツ一位です。また、医療費は脳卒中・循環器病として全体の20%、年間約6兆円に達しています(2017年)。従って、「脳卒中・循環器病は日本国民の脅威」と捉え、国を挙げて取り組む必要性から、前記の基本法は世界初の国の法律となりました。脳卒中患者全体の76%は初発者であることから脳卒中予防も極めて重要で、当科では脳卒中を発症する危険性のある病態(高血圧症、脳動脈瘤、頸部/脳血管狭窄など)を早期に診断し、未然に治療することにも取り組んでいます。少しでも大分県民皆様の健康寿命の延伸に貢献できるよう、微力ながら努めたいと思います。

形成外科部長ご挨拶



形成外科 部長

かとう あいこ
加藤 愛子

2020年4月に赴任いたしました、加藤愛子と申します。よろしくお願いたします。

形成外科は一般的になじみが薄く、よく整形外科や皮膚科と混同されがちです。何をしている診療科なのか尋ねられることもしばしばあります。一言でいいますと、形成外科は身体表面の色や形の変化に対する治療を行う外科系の診療科です。具体的には、身体表面の生まれつきの異常、皮膚の良性腫瘍(ホクロやイボなど)や悪性腫瘍(がん)切除後の組織欠損、傷跡(ケロイドやひきつれなど)、顔のけが、熱傷(やけど)、眼瞼下垂、腋臭症(わきが)などの治療を行っています。体の表面全体のことを幅広く扱う科であり、守備範囲は多岐にわたります。

形成外科の治療は、科名に「外科」とついている通り、手術での治療がほとんどですが、患者さん一人一人の希望に合わせて、疾患一つ一つの性質に合わせて、手術だけでなく塗り薬や飲み薬などの治療も組み合わせて行うこともあります。一度失ってしまったものを100%元通りに治せるわけではありませんが、多くの患者さんに満足していただけるよう、診療科スタッフや院内他科とも協力し、技術と知識を駆使して最適な治療を提供するように努めていく所存です。

精神神経科部長ご挨拶



精神神経科 部長

しおつき いっ ぺい
塩月 一平

4月より前任の森永部長から精神科部長を引き継ぎました。別府市の出身で大分大学を卒業して精神科医局に入局、2年間だけ厚生連鶴見病院に勤務しましたが、それ以外は大分大学医学部附属病院で長年勤務していました。昨年4月に県立病院に赴任しましたが、1年たってもまだ慣れない部分もあります。

一般の救急医療と同じように精神科救急がありますが、大分県では受け皿が十分ではありません。また妊婦さんや産後で精神的に不安定な方、身体的な疾患で入院したがせん妄(身体疾患や中毒によって引き起こされる、急性で変動する意識障害・認知機能障害です)を起こした方、がん患者さんの精神面の対応など身体と精神を切り離すことはできません。さらには自殺をして骨折がある方など、身体治療と同時に精神科の治療も必要です。様々なケースに対して、総合病院の精神科医として、身体科の先生と密に連携し精神面の対応を行っていきます。また精神科救急医療や精神科救急医療システムにも積極的に取り組むべく、周囲と顔のみえる関係を作りながら、大分県の新しい精神科医療を築いていきたいと考えています。

10月には精神医療センターが開設しますが、精神科救急医療と精神科・身体合併症医療によりいっそう貢献できるよう努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。

神経内科部長ご挨拶



神経内科 部長

あ そう やす ひろ
麻生 泰弘

4月から神経内科の部長に就任いたしました麻生泰弘と申します。

私は大分大学を卒業し、同大学の第三内科(神経内科)に入局しました。これまでに大学病院、新別府病院や湯布院病院で臨床研修を積み、大学院では脳血流の低下が脳へ与える影響について研究をしました。大学病院では病棟医長を2年、医局長を5年間務めました。大分県立病院で勤務する機会はありませんでした。

さて、神経内科は脳や脊髄、末梢神経や筋肉の病気を扱う診療科です。具体的には、アルツハイマー病やパーキンソン病、脳梗塞、髄膜炎や脳炎、てんかん、末梢神経障害、筋炎や筋ジストロフィーなどがあります。急速に超高齢社会になった日本では、神経疾患診療のニーズは大変増えていますが、対応する神経内科医の数は全く不足しています。

当院の神経内科は、昭和51年に永松啓爾先生が初代部長として開設され、平成10年からは法化図陽一先生が部長を務められました。現在は5名のスタッフで診療しています。これまでに先輩の先生方が構築された大分県の神経内科診療を大切に、県内の病院と良い連携を続けながら、より一層の社会貢献ができるように努力して参りますので、宜しくお願ひします。

精神医療センターの診療について

入院

精神医療センターへの入院には精神保健福祉法上の手続きが必要です。入院時にご家族（配偶者、2親等以内の血族）の同伴をお願いいたします。家族がいない方はご相談ください。法に基づいた下記のいずれの入院形態にも該当しない場合は、入院できません。

任意入院：ご本人の同意のもとに成立します。

医療保護入院：精神保健指定医の診察の結果、入院治療が必要と判断された場合に、ご本人からの同意が困難な場合、ご家族の同意のもとに成立します。

応急入院：精神保健指定医の診察の結果、入院治療が必要と判断された場合に、ご本人・ご家族の同意が得られない場合、72時間を限度に行われます。

措置入院：精神障害のために自傷他害のおそれがある場合で、知事の指示による2名の精神保健指定医の診察の結果、措置入院が必要と判断された場合に、知事の決定により行われます。

外来

大分県立病院は、地域の病院・診療所（クリニック）からの紹介に応じて、重い病気や深刻なけがのために、より高度かつ専門的な医療サービスを必要とする患者さんを受け入れています。精神医療センターにおきましても紹介による患者さんを診療いたします。

新患・再来とも予約制です。初診時にご家族の同伴をお願いします。治療後、患者さんの病状が安定した場合、日常の健康管理や体調の変化を気軽に相談できる身近な主治医である「かかりつけ医」や地域の医療機関に治療の継続を依頼させていただきます。



地域との連携

精神医療センターでは、精神科の急性期や身体合併症の患者さんを短期・集中的治療し、できるだけ早く地域に戻れるよう、医師、看護師、薬剤師、精神保健福祉士、公認心理師などさまざまな職種が入院時から関わり、質の高いチーム医療の提供を目指します。地域の医療機関をはじめとして、保健所、訪問看護ステーション、介護・障害福祉の相談窓口や福祉サービスを提供する事業所など、地域のさまざまな支援機関と積極的に連携します。

地域の医療機関の皆さまにおかれましては、当センターとの連携について、ご理解とご協力をお願いいたします。

